



県内経済効果256億円



大勢のファンで盛り上がったパブリックビューイング。昨年10月19日、大分市東大道路



県は1日、昨秋のラグビーワールドカップ（W杯）大分開催に伴う県内の経済波及効果は256億円（推計）だったと発表した。欧

外国人消費額 1人11万円

州などから予想を上回る外国人客が訪れ、大会前の試算（2018年2月時点）を3億円上回った。「対戦カードに恵まれ、観戦者の消費単価も高かったことが好結果につながった」と分析している。

（大分市）で延べ約17万3千人が観戦した。県によると、全体の直接効果は172億円で、そのうち観戦客の宿泊費や飲食代などの消費支出額は70億円だった。観戦客の32%（約5万5千人）を外国人が占め、1人当たりの消費額は11万1千円。県外客（6万2千円）の倍近くに達した。他県会

ラグビーのプレーシーンを再現した彫刻作品をイメージし、東京芸術大美術学部の小谷元彦准教授に制作を依頼。今秋以降の完成を目指す。推進委は同日付で組織を「One Rugby、One Oita 推進委員会」に改称した。（大塩信）

昭和通り交差点に

場観戦した後に大分観光を楽しんだ外国人客と、大分市中心部に設けられたファンゾーンや祝祭の広場（同市府内町）での国内客の消費額はそれぞれ20億円に上った。

他には▽宿泊業や飲食店の仕入れ増など 57億円▽雇用者の所得増に伴う波及効果 27億円。大会組織委員会や県の開催経費は62億円だった。

県が大銀経済経営研究所に委託し、来場者約2千人へのアンケート調査などを基に算出した。柳井孝則・県芸術文化スポーツ振興課長は「準々決勝の開催などで熱狂的な海外客が増え、高めに見積もっていた試算も上回った。喜ばしく、誇らしい」と話した。（大塩信）

大分県は、ラグビーワールドカップ（W杯）の県内への経済波及効果は256億円だったと発表しました。

2020年4月2日付
大分合同新聞 22面

①県内への経済波及効果 256 億円の内訳は、観戦客が宿泊や飲食などで消費した直接効果ア.....1.7.2.....億円、宿泊業や飲食店の仕入れ増など イ.....5.7.....億円、雇用者の収入増に伴う波及効果 ウ.....2.7.....億円です。ア、イ、ウに入る数字を記入してください。

②256 億円は、大会前の試算よりも 3 億円上回っています。最大の理由は何ですか。

.....欧州などから予想を上回る外国人客が訪れたから.....

③外国人客は大分県内でいくら使ったことになりますか。計算式も書いてください。

.....(111,000 円×約 55,000 人) + 20 億円 = 約 81 億 500 万円.....

④あなたのラグビーW杯の思い出は？ おうちの人などと話し合ってみましょう。